「既存ブレインリソースを用いた非認知症高齢者および認知症患者における脳タンパク質の定量と疾患との関連性解析」に関する情報公開

当センターでは、東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンクに登録された方を対象に「既存ブレインリソースを用いた非認知症高齢者および認知症患者における脳タンパク質の定量と疾患との関連性解析」の共同研究を実施します。

本研究への協力を望まれない場合、あるいは研究の詳細についてお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ担当者までご連絡ください。

●研究の名称

既存ブレインリソースを用いた非認知症高齢者および認知症患者における脳タンパク質の定量と疾患との関連性解析

●研究責任者

東京都健康長寿医療センター　神経病理／高齢者ブレインバンク　　齊藤祐子

●研究の対象

2001 年 7 月～2022 年 1 月に東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンクに登録された方の内、病理診断によりアルツハイマー病と診断された方および顕著な疾患なしと診断された方。

●研究の期間

倫理委員会承認後から 2024年 3 月まで

●研究の目的と概要

脳内神経保護ペプチド p3-Alcb はアルツハイマー病患者で低下します。この低下の原因を明らかにする目的で、p3-Alcb の産生に関わる脳タンパク質の変動を解析します。研究成果は、新たなアルツハイマー病治療薬の開発に貢献することが期待されます。

●研究の方法

試料は匿名化されて、北海道大学に送られます。

北海道大学では脳凍結組織サンプルを可溶化し、TWIST1 および Alcβは、抗体を用いたイムノブロット法で解析・定量を行い、p3-Alcβは sELISA 法で定量いたします。得られた結果を解析し、p3-Alcb 量が変動する原因、そのメカニズムを明らかにします。

●研究に使用する試料・情報

アルツハイマー病患者と顕著な脳変性疾患のない高齢者の凍結脳（側頭葉）
それに付随する情報（診断名、年齢、性別、臨床所見（認知機能検査結果など）、病理学的解析結果、死後時間など）

●研究組織

東京都健康長寿医療センター	神経病理／高齢者ブレインバンク	齊藤祐子
		村山繁雄
北海道大学大学院薬学研究院	認知症先進予防・解析学	鈴木利治

●お問い合わせへの対応

本研究に関するご質問や資料閲覧のご希望は、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。

研究計画書や研究方法に関する資料については、ご遺族の希望に応じて、他の研究対象者や研究者に不利益が及ばない範囲内で、ご覧になることができます。また、研究への協力撤回を表明された場合は、速やかに研究での利用を停止いたします。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることはございません。しかしながら、すでに研究に使用されていた場合には、結果の削除など十分なご対応ができない場合がありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】
〒173-0015　東京都板橋区栄町 35 番 2 号
東京都健康長寿医療センター
高齢者ブレインバンク/神経病理　　齊藤祐子
電話 03-3964-3241 内線 4419（平日 9:00~17:00）